

一 ほたるがいつばい

一 対象学年 第一学年

二 主題名 ほたるを守る

三 ねらい

身近な自然の美しさに触れ、優しい心で接しようとする心情を育てる。(3-17)

(2)

四 主な発問

(一) 暗闇の中に、ほたるの不思議な光がゆれているのを見たさと子さんは、どんな気持ちだったでしょう。

(二) 手の中で光るほたるを見て、さと子さんはどんな気持ちだったでしょう。

(三) 青白いほたるの光の波が広がるのを、だまって見ていたさと子さんは、何を考えていたのでしょうか。

五 指導上の工夫・留意点

ほたるの生態や飼育の方法について調べておいたり、北川町

がほたるの名所であることを紹介した新聞の切り抜きなどを集めておくとよい。

低学年の児童は、特に自然や動植物と直接接触合って遊ぶことが好きである。しかし、自分の行為が自然を大切にしていることには気づきにくい。この段階においては、自然に触れる経験を通してながら、自然環境に対するやさしい心を養うことが求められる。

本資料は、一びきのほたるを自分のものにしたと思ったさと子が、本当の意味での自然を大切にすることについていく内容である。

手の中で光るほたるを見ている場面では、さと子のように低学年にありがちな、「自分の宝物にしたい」という気持ちに十分浸らせない。そして、ほたるを逃がそうと思ったさと子の気持ちの変化を追いながら、ねらいにせまらせたい。

六 参考資料等

北川町役場の職員の話をもとに、編集委員会で作成した。

二 山ごぼう

一 対象学年 第一学年

二 主題名 暗くならないうちに

三 ねらい

安全に気をつけて、わがままをしないで、規則正しい生活をしようとする気持ちを育てる。(1—①)

四 主な発問

- (一) 山奥に入り込んでしまったとき、リキは、どんな気持ちだったでしょう。
- (二) あたりが真つ暗になってしまったことに気づいたとき、リキはどんな気持ちだったでしょう。
- (三) リキは、どんな気持ちから、暗くなる前にうちに帰るようになったのでしょうか。

五 指導上の工夫・留意点

自己中心的な傾向の強いこの期の子供たちは、自分の欲する

ままに行動してしまうことが多い。それが自分の生活を乱し、健康や安全の面で問題があったりしても、そのことに気づきにくい。

本資料は、そのような子供たちにとって身近な話題を、子供たちの側からとらえ、表現したものである。

展開では、真つ暗な山の中に一人で立っているリキの気持ちに十分共感させることが、後の展開を効果的にする上で大切である。母親の叱責や山ごぼうの言葉により反省するというところに視点を置くのではなく、リキが何に気づいたのかを追求させることにより、節度ある生活態度の大切さを理解させたい。

六 参考資料等

(一) 補足説明

「ヤマネ（冬眠鼠）」は国の天然記念物に指定されている小獣で、高地の森林に生息している。資料を扱う上では、ヤマネについて詳しく説明する必要はない。

(二) 出典

椎葉村尾前地区に伝わる昔話をもとに、編集委員会で再話したものである。

三 市民の森のはなしようぶ

一 対象学年 第二学年

二 主題名 みんなの公園

三 ねらい

みんなで使う場所を大切に、約束やきまりを守ろうとする心情を育てる。(4-1)

四 主な発問

- (一) 一面に咲いているはなしようぶを見たとき、あゆみさんは、どんな気持ちだったでしょう。
- (二) 口を尖らせて「はあい」と言ったあゆみさんは、どんな気持ちだったでしょう。
- (三) お父さんの言葉を聞いて、あゆみさんはどんなことを考えたでしょう。

五 指導上の工夫・留意点

公共の場は、「社会のもの」「みんなのもの」という性格を

もち、主体者としての子供の姿に気づかせることが大切である。

低学年においては、自由と勝手を取り違えることなく、公共の場の約束やきまりを守って行動し、他人に迷惑をかけることのないよう心がける態度を養うために、具体的にきめ細かく指導していく必要がある。

本資料は、自分の衝動のために他人のことが考えられなくなりがちなる心理や行動を表現している。

展開では、母親に注意され返事はしたものの、何となくすっきりしないあゆみの気持ちについて十分考えさせたい。その上で、父親の話を聞いて考えたことについて話し合わせるようにし、効果的に展開していきたい。

子供たちは、今までの体験から、ねらいとする価値について多様な考え方や感じ方を持っていると考えられる。それらを出させ、話し合う中で、多くの人とかわりあいながら自分分は生きているのだという自覚をもたせたい。

六 参考資料等

(一) 出典

宮崎市役所都市計画公園課の職員の話をもとに、編集委員会で作成したものである。

四 十次とおび

一 対象学年 第二学年

二 主題名 温かい心

三 ねらい

身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てる。(2—②)

四 主な発問

- (一) お母さんにおびをしめてもらった十次は、どんな気持ちだったでしょう。
- (二) 自分のしめている絹のおびを、ぐつとにぎりしめた十次は、何を考えていたのでしょうか。
- (三) やさしい目であなづいたお母さんを見て、十次はどう思ったでしょう。

五 指導上の工夫・留意点

明治時代に生きた人物の幼少期の話なので、理解しにくい言

葉(はたおり機・鳥居・絹のおび・針仕事など)を説明するとよい。

この期の児童は、身近にいる人たちに温かい心で接することはできるが、どんなときにでも、というわけではない。

本資料では、そまつなおびをしめてからかわれていた松三に対する、十次の温かい心と行為が表されている。

展開では、特に母からもらった大切なおびを松三のためにとりかえる十次の気持ちや、きっぱり言い切る態度を共感的に取り扱いたい。

六 参考資料等

- (一) 略伝
慶応元年、現在の高鍋町に生まれる。医学校を出たが、身寄りのない子供たちのために一生を捧げようと決意する。十次の設立した「岡山孤児院」には、多いときには千二百名もの子供たちが生活していた。人々に惜しまれながら、大正三年に亡くなる。

(二) 参考文献

- 「郷土の人物」宮崎県教育委員会発行(昭和五十七年)
「石井十次小伝」財団法人石井十次顕彰会発行

五 たちばな橋

一 対象学年 第三学年

二 主題名 宮崎を愛して

三 ねらい

郷土を愛し、郷土をよりよく発展させていこうとする心情を育てる。(4—5)

四 主な発問

- (一) 邦成が「よし、何とかして橋をかけよう。」と決心したとき、どんな思いがふくらんできたでしょうか。
- (二) 喜び合っている人々を、邦成はどんな気持ちで見ているのでしょうか。
- (三) 大雨による増水で橋が流されたとき、邦成はどんな気持ちになったでしょうか。
- (四) たちばな橋をはさんで大きく発展してきた宮崎のまちの様子を見たとしたら、邦成はどんなことを思うでしょうか。

五 指導上の工夫・留意点

郷土の偉人福島邦成が、宮崎の発展のために、たちばな橋建設に尽力した話である。当時のくらしの様子や交通事情等の説明をした後に、本資料を取り扱おうと効果的である。

発問(一)では、橋がないことで生活に不便を感じる村人の様子から、邦成の橋をかけることへの思いに共感させたい。

発問(二)では、橋の幅や長さについてイメージ化を図ることで、工事の大変さや完成したときの喜びについて理解させたい。

発問(三)では、橋が流されるといふ不運に遭遇しながらも、村人の生活の改善やひいては郷土の発展に貢献しようとする邦成の気持ちに共感させたい。

発問(四)では、現在の宮崎市の発展に大きな功績を残した邦成の取組みを整理するとともに、児童に郷土の発展を願う心情をふくらませることが大切であろう。

六 参考資料等

(一) 略 伝

一八二二年(文政四年)〜一八九八年(明治三十一年) 宮崎市 中村町の医師の家に生まれる。十五歳のとき、古賀洞庵の門に入り、その後昌平黌(後の東京大学)で漢学を学び、さらに蘭学と西洋医学を学ぶ。長崎でオランダ人に種痘を学び、日本における最初の種痘を宮崎で実施する。蒸気船「日向丸」を購入し、美々津・広瀬・赤江・内海の航路を開く。

(二) 参考文献

- 「郷土の人物」 宮崎県教育委員会発行(昭和五十七年)
- 「日向郷土事典」 (松尾宇一編)
- 「ふるさと紀行」 (宮崎日日新聞社)

六 心をひらいて

一 対象学年 第三学年

二 主題名 心をひらいて

三 ねらい

よく考えて行動し、自分の過ちは素直に改めようとする心情を育てる。(1-1) (4)

四 主な発問

- (一) おぜんが脚が折れてしまったことに気づいた総吉は、どんな気持ちになりましたか。
- (二) おぜんが脚が折れたことをだまっていた総吉は、どんな気持ちだったでしょう。
- (三) だまっていた総吉は、なぜ、思い切って話そうという気持ちになったのでしょうか。
- (四) 村人に本当のことを話した総吉は、どんな気持ちになったでしょう。

五 指導上の工夫・留意点

本文は、西郷村に伝わる民話「おせりさん」を教材用に作成したものである。子どもたちに理解しにくい言葉（村のお祭りや祝い事、お膳やお椀）については、補足説明をしておくとい。

主な発問の(一)については、このような失敗の体験は、だれにでもあることなので、総吉の気持ちを共感的に理解させるには、子どもたちの体験を想起させることもよい。

六 参考資料等

(一) 補足説明

「大斗の滝」とも書く。村の中央部、国道三二七号から一キロ程南に入った耳川の支流にかかる滝である。高さ約七十メートル、三段になって落下する。滝神が住むなど、滝にまつわる幾多の伝説が伝えられている。辺りの溪谷は、樹齢百〜三百年の大木におおわれ、野鳥が飛びかうなどの自然に恵まれている。

手軽なハイキング地として多くの人に親しまれている。

(二) 参考文献

- 「郷土資料集」 西郷村教育委員会編
「宮崎の伝説」 宮崎県民話研究会編

七 すくすくのびよ

一 対象学年 第四学年

二 主題名 すくすくのびよ

三 ねらい

一生懸命に働くことの大切さを知り、自分から進んで働くこととする態度を育てる。(4—②)

四 主な発問

- (一) 金右衛門はどのような気持ちで、杉のなえ木をさがしたのでしょう。
- (二) みんなといっしょになって、杉のなえ木を植えている金右衛門は、どんな気持ちでしょう。
- (三) 夏の暑さや冬の寒さが厳しい中で仕事をする金右衛門は、どんな気持ちになったでしょう。
- (四) 五十年後、りっぱになった杉の木を見上げた金右衛門は、どんなことを考えたでしょう。

五 指導上の工夫・留意点

杉の木が当時の産業を支えたことを補足説明することによって、杉の木を育てることが暮らしを豊かにすることを理解できるようにする。

主な発問(三)では、厳しい条件の中で仕事をする金右衛門の心情に共感させることにより、一生懸命働くことの大切さに気づかせたい。

六 参考資料等

- (一) 補足説明
一七六二年、日南市の飢肥の板敷に生まれ、三十五歳のとき、植木方役人に任ぜられる。以後、山野に野宿しながら植林一筋に働き一十万本以上の造林地を二十四か所もつくった。秋田杉、吉野杉と並び、飢肥杉は、日本の三名杉に数えられる。一八四六年(弘化三年)八十五歳で努力の一生を終える。
- (二) 参考文献
「野中金右衛門翁小傳」
野中金右衛門翁顕彰会長 元日南市長 井戸川一著
「郷土の人物」宮崎県教育委員会発行(昭和五十七年)
「宮崎県大百科事典」 宮崎日日新聞社

八 帰っておいで、アカウミガメ

一 対象学年 第四学年

二 主題名 自然を大切に

三 ねらい

自然を守り、動植物を大切にしていこうとする心情を育てる。(3-1)

四 主な発問

- (一) 涙を流しながら、たくさんの卵を産んでいる母ガメを見て、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。
- (二) 卵の場所に横たわっている木を引っ張っているとき、ぼくはどんな気持ちだったでしょう。
- (三) ゴミにぶつかり何度も何度もひっくり返る子ガメを見て、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。
- (四) ぼくは、どんな考えから「また、元気に帰ってこいよ。ぼくたちが砂浜を守っているからね。」と言ったのでしょうか。

五 指導上の工夫・留意点

宮崎県の天然記念物に指定されているアカウミガメを素材とした話である。アカウミガメの産卵から、子ガメがふ化して海に帰るまでにかかわる主人公の感じ方・考え方等を追求するこ

とを通して、自然を守り、動植物を大切にしていこうとする心情を育てたい。

発問(三)では、子ガメの誕生の喜びを押さえるとともに、砂浜のゴミに気づき、自然を守っていききたいと願う主人公の気持ちに気づかせたい。

発問(四)では、自然や動植物を大切にしていこうとする心情をふくらませていきたい。

六 参考資料等

(一) 補足説明

アカウミガメはカメ目、ウミガメ科である。日本近海に生息するウミガメは現在五種で、そのうち日本本土で産卵するのがこのアカウミガメである。太平洋とインド洋の熱帯および亜熱帯の海に広く生息している。暖流に乗って回遊し、日本近海に北上、毎年五月はじめごろから八月ごろまでに砂浜に上陸し、穴を掘って一回およそ百〜百五十個の卵を産む。卵は太陽があたためた地熱によって約二か月でふ化する。

宮崎県は、昭和五十五年(一九八〇年)から、県の天然記念物に指定している。

(二) 参考文献

「ウミガメ」

石井正敏著 平凡社

○聞取調査 高鍋町教育委員会 社会教育課

宮崎県野生動物研究会

九 安井息軒

一 対象学年 第五学年

二 主題名 希望をすてずに

三 ねらい

自分の立てた目標は、希望をもって最後までやりぬこうとする態度を育てる。(1—(2))

四 主な発問

- (一) 父親から優しく言葉をかけてもらった息軒は、どんなことを考えたでしょう。
- (二) どんな考えから、息軒は、食事の時間をはぶいてまでも学問に精を出したのでしょうか。
- (三) 息軒は、医者から清武へ帰るように言われたとき、心の中でどんなことを考えていたでしょう。
- (四) 人々に尊敬されるようになった息軒は、今までを振り返って心の中で何とつぶやいたでしょう。

五 指導上の工夫・留意点

安井息軒は、小さいころ重い病気にかかり、右目が不自由に

なったが、それを跳ね返すかのように学問に専念していき、ついには日本を代表する大儒学者となる。そこには、日本一の学者になるという希望をもって、最後まであきらめずにやりとげた息軒の強さがあったことに気づかせていきたい。

学問に精を出しすぎて、病気になってしまった場面を中心に考えさせたい。医者から言われてつい弱気になりがちになる人間の弱さに共感させていきながら、それでも、学問を続けていった息軒の心の中を探らせていくことで、ねらいに迫るようにしていく。

当時の武士の生き方や考え方は、儒教が中心であり、それを研究する儒学は武士の学問の中心的な存在だった。

六 参考資料等

- (一) 略 伝
 - ・ 一七七九年(寛政一一)～一八七九年(明治九)
 - ・ 宮崎県清武町中野に生まれる。一四代家茂より昌平黌教授に任ぜられる。郷里では明教堂、振徳堂において子弟を教育。
 - ・ 幕末の大儒学者として有名。
- (二) 参考文献
 - 「郷土の人物」 宮崎県教育委員会発行(昭和五十七年)
 - 「安井息軒」 清武町安井息軒百年忌奉賛会発行

十 後藤 勇吉

一 対象学年 第五学年

二 主題名 希望のつばさ

三 ねらい

進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくしようとする態度を育てる。(1—5)

四 主な発問

- (一) 遅くまでコンパスや三角定規を使って熱心に製図に取り組む勇吉は、どんな考えを持っていたのでしょうか。
- (二) 毎日、きびしい練習をくり返してもいっこうに空中に浮かび上がらないときの勇吉はどんな気持ちだったでしょう。
- (三) ようやく飛行機が飛び上がったときの勇吉は、どんな気持ちだったでしょう。
- (四) 飛行機を使って、お客を運んだり、人助けをしたりできるようになったときの勇吉の気持ちを想像してみてください。

五 指導上の工夫・留意点

すぐれた飛行機技術を人々の役に立てるために、常に進取の気持ちを持ち、第一線の指導的立場で活躍を続けた勇吉の人物像に焦点を当てて指導する。

旅客輸送の技術が未開発であった時代に、自分の夢の実現に

向けて絶えず創意工夫してすぐれた技術を身につけていった勇吉の生き方に共感させることが大事であろう。

六 参考資料等

(一) 略 伝

二十七歳で旅客輸送に成功。二十八歳から三十一歳にかけて、大阪―別府間定期航空便の第一便の飛行や我が国初の日本一周飛行、大阪―京城―大連航空輸送の往復等に成功。

昭和二年、三十二歳のとき、太平洋横断飛行士実行委員会で(監督)後藤勇吉(操縦正員)藤本昭男、海江田信武が選ばれる。すぐに、霞が浦海軍航空隊に入隊し、航法、計器飛行夜間飛行や霧中飛行、長距離飛行等の訓練に入る。この一大事業には多くの危険が伴うことは誰よりも勇吉は知っていたので、仲間を励まし緻密な計画を立てて猛訓練を続けた。

運命の二月二十九日。視界が全くきかない雨と霧の中を離陸して十五分。後部座席の勇吉が、操縦者の諏訪飛行士に引き返すように指示を出したが、間もなく機体は山峡の樹木に激突。二人は機外に脱出。勇吉は、脱出できず焼死。最も慎重で技量が卓越した飛行家として讃えられていた勇吉は太平洋横断飛行を数か月後にした三十三歳の若さだった。

(二) 参考文献

「郷土の人物」 宮崎県教育委員会発行(昭和五十七年)
「後藤勇吉の記録」夕刊ポケット新聞社(昭和五十二年)

十一 高木兼寛

一 対象学年 第六学年

二 主題名 みんなのために

三 ねらい

困っている人や貧しい人たちのために、積極的に働き、人々のためにつくそうとする心情を育てる。(4-18)

四 主な発問

- (一) 医者に見てもらえない貧しい人たちを見て、兼寛は、どんな気持ちだったでしょう。
- (二) 病院の経営がうまくいかなくなって、なかなか政府の援助を受けられなかったときの兼寛は、どんな気持ちだったでしょう。
- (三) 西へ東へ歩き回って援助を求めているときの兼寛はどんな気持ちだったでしょう。
- (四) 治療を受けられるようになって喜ぶ人々を見て、兼寛はどんな気持ちだったでしょう。

五 指導上の工夫・留意点

高木兼寛の業績としては、脚気病の原因が食事にあるとして、ビタミンB1の不足から起こることを発見したことが有名であるが、本資料では、慈恵大学設立の話を中心に、貧しくて治療を受けられない人々のために兼寛が奔走したことを通して人類愛にまで深めていきたい。

病院の経営がうまくいかなくなって、なげだしてしまいそうになる兼寛の気持ちに共感させることが大切である。その後、それでもあきらめずに西へ東へと奔走した、兼寛の心情にふれさせ、ねらいへと迫るようにする。

六 参考資料等

- (一) 略 伝
一八四九年(嘉永二年)高岡町穆佐に生まれた。兼寛の脚気病に関する研究は、世界のビタミン学者をして「不滅の業績を残した。」と言わせた。その他、私立施療院看護婦学校を開設。一九二〇年に没。
- (二) 参考文献
「郷土の人物」 宮崎県教育委員会発行(昭和五七年)
高木兼寛伝 東京慈恵会医科大学創立八五年事業委員会発行
高木兼寛「道徳資料集」高岡町教育委員会

十二 小村寿太郎

一 対象学年

第六学年

二 主題名

くじけない心で

三 ねらい

より高い目標を立て、希望と勇気をもつてくじけないで努力する心情を育てる。(1—②)

四 主な発問

(一) 体が弱い上に、年上の者ばかりに囲まれて、勉強と仕事を両立していかなければならない寿太郎はどんなことを考えていたでしょう。

(二) やつとの思いでたどりついた長崎で、英語の先生がもういいことを聞いた寿太郎は、どんな気持ちだったでしょう。

(三) いくら断られても、あきらめずに留学を希望したのは、どんな考えからでしょう。

(四) 留学の希望が受け入れられた寿太郎は、どんなことを考えていたでしょう。

五 指導上の工夫・留意点

資料を読むに当たっては、当時の時代背景を社会科との関連を図りながら、児童に把握させておくことを大切にしたい。

当時、英語を学ぶことさえままならない状況であったにもかかわらず、郷土宮崎から、世界の大舞台で活躍する寿太郎が育つていく過程を知り、その時々寿太郎の気持ちや考え方がふれることは、これからの国際化社会を生きる児童にとって、大変、貴重であるといえよう。

その際、寿太郎の希望や勇気、何事にもくじけないでがんばろうとする不とう不屈の精神にじっくりと目を向けさせていくようにしたい。

六 参考資料等

(一) 略伝

一八五五年 飢肥藩に生まれる。

一八七五年 ポーツマス講和条約を締結。

一九一一年 米英独等列国と通商条約を締結。

同年、病気により死去。

(二) 参考文献

「小村寿太郎小伝」

小村寿太郎候奉賛会